

「居眠り事故防止」

●北海道は全国と比較して、正面衝突及び車両単独事故の割合が高く、当事者の死亡事故は前方不注意等の安全運転義務違反で計上されています。

道警では、そこには疲労から来る居眠り運転や、注意力のレベルが著しく低下する「覚低走行」が内在していることに着目し、「居眠り事故防止対策プロジェクト」を設置して、過去3年間にわたる居眠り運転に絡む多面的な事故分析とアンケート調査を実施しました。

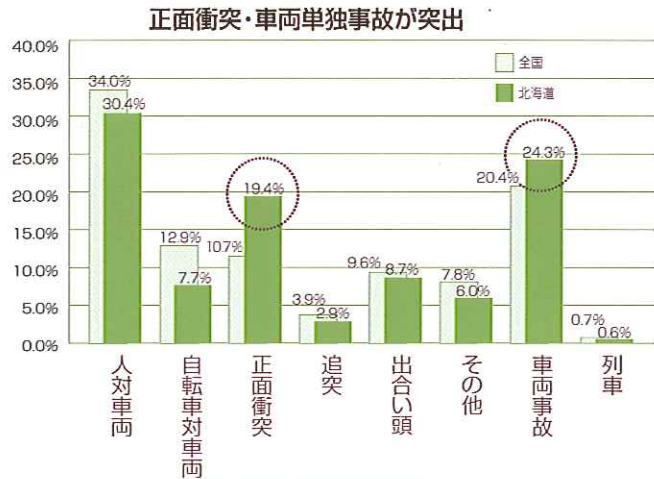
その結果、ほとんどのドライバーが運転中に眠気を感じ、その時間も午後2時前後に事故が多発していることが判明しました。

このようなことから、広報啓発活動として、居眠り事故の実態と防止対策について、TVやラジオなどのメディアを活用して広く広報を実施するとともに各種交通安全講習等を通じて注意を喚起する取り組みを推進し、休憩場所の確保や安全施設の整備などの対策を講じております。

居眠りに起因する事故が多発しておりますので、運転中におけるちょっとした仮眠・休憩を心掛けましょう。

居眠り事故の実態

事故実態の全国対比と北海道の居眠り事故（過去3年）



居眠りと思われる死亡事故

死亡事故	発生(死者数)	占め率(死者)
全事故	687件(732人)	100%
正面・単独事故	300件(330人)	43.7%(45.1%)
居眠り事故	112件(124人)	37.3%(37.6%)

※正面衝突・車両単独事故のうち、居眠りと思われる死亡事故は**112件**(124人)

推進事項

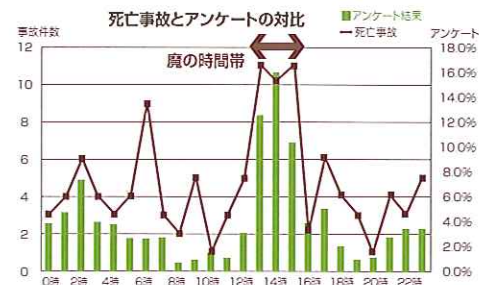
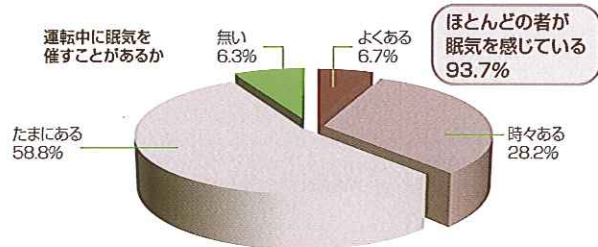
(1) プロジェクトの設置

本年5月28日、11人体制による「居眠り事故防止対策プロジェクト」を設置

(2) 居眠り運転に絡む多面的な事故分析及びアンケート調査

トラックドライバー等510人を対象に居眠りに関するアンケート調査を実施

●事故の発生状況、アンケート調査結果から、ほとんどのドライバーが運転中眠気を感じ、その時間帯も事故が多発する午後2時前後であることが明らかとなった。



協賛

北海道砂利工業組合/北海道生コン輸送協会/(社)日本砕石協会北海道地方本部/(社)北海道トラック協会

後援

北海道開発局/北海道労働局/北海道運輸局/北海道森林管理局/鉄道・運輸機構鉄道建設本部北海道新幹線建設局/東日本高速道路(株)北海道支社
北海道/北海道警察/北海道市長会/北海道町村会/(社)北海道交通安全推進委員会

建設産業交通安全推進北海道本部構成団体

(社)北海道建設業協会及び地方建設業協会(11団体)/建設業労働災害防止協会北海道支部/(社)日本土木工業協会北海道支部/(社)北海道舗装業協会/(社)北海道電業協会/(社)北海道空調衛生工業協会/北海道鉄筋協同組合/北海道塗装組合連合会/北海道建設軽体工業協同組合/(社)北海道土木工業連合会/北海道左官業組合連合会/北海道管工事業協同組合連合会/(社)北海道造園緑化建設業協会/北海道造園組合連合会/(社)北海道農業建設協会/(社)北海道建築工業業組合連合会/(社)北海道森林土木建設業協会/札幌中小建設業協会

平成22年度 工事追込期における

総ぐるみ運動

建設産業関係者による交通事故死ゼロの達成

●実施期間/平成22年10月1日(金)~11月30日(火)



安全確認と安全速度を習慣づけよう
シートベルトの着用を徹底しよう
工事現場周辺道路の交通事故防止に努めよう
過労運転・過積載運行を防止しよう
デイ・ライト(昼間点灯)運動を推進しよう

主催:建設産業交通安全推進北海道本部

平成22年度の工事追込期を迎えるにあたり、建設産業関係者の交通事故抑止にむけて、関係機関が一丸となって交通事故防止総ぐるみ運動を展開し、交通ルールの遵守と交通マナーの実践により、交通事故防止を徹底しましょう!

「安全確認と安全速度 を習慣づけよう」

思いやりをもって積極的な安全運転を。

トラックには特有の視界特性があります。高い視点(目の位置)から見下ろすため、ドライバーに無意識な優越感をもちます。自分より小さな車や歩行者への配慮を欠くばかりでなく「スピードの出し過ぎ」や「無理な追い越し」等も誘発しがちです。また路面空間が広く感じられ、それを車間距離と錯覚し、知らぬ間に異常接近してしまい、追突事故を起こしやすいという傾向もあります。このため、ドライバーには、より強い安全確認への意識が必要です。普段から積極的な安全確認と車間距離に配慮した安全速度の実践を習慣づけましょう。



交通事故死 ゼロの達成を!!

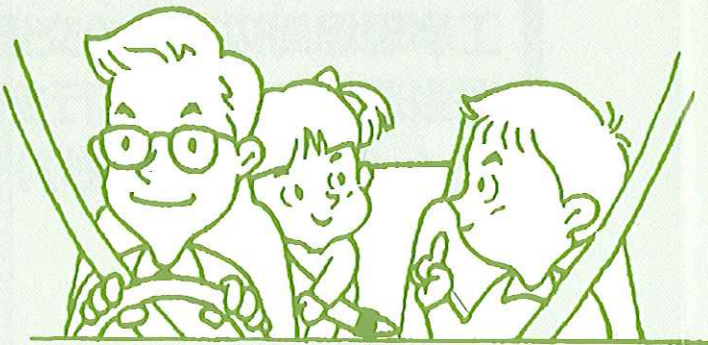
ゼロ



「シートベルトの着用 を徹底しよう」

乗るなら締める!あなたの「命綱」。

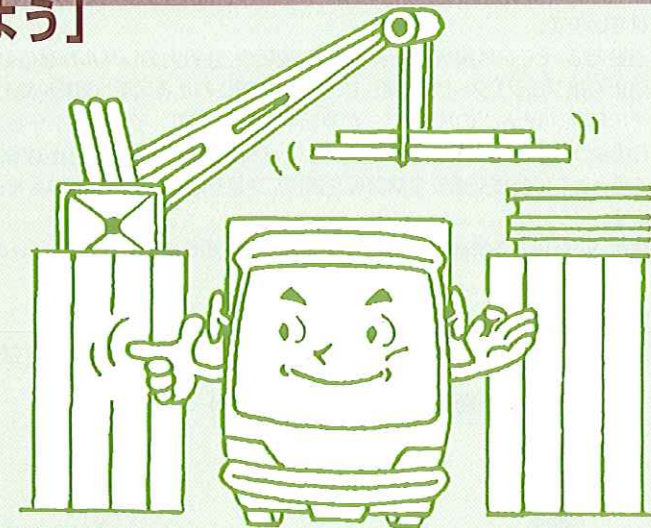
平成20年6月から改正道路交通法が施行され、すべての座席でシートベルトの着用が義務付けられました。平成21年、後部座席での着用率は21.6%と全国平均33.5%(全国41位)、助手席では92.6%、運転席では95.6%となっております。乗車中の死者118名中45人が非着用、その中で、着用していれば28人が助かった可能性がありました。あなた自身と大切なひとのために「乗ったらシートベルトを締める」を徹底しましょう。



「工事現場周辺道路の 交通事故防止に努めよう」

一人一人の安全確認が事故防止につながります!

トラックや特殊車輛の出入りが激しい工事現場周辺道路は危険がいっぱいです。現場の整理整頓はもちろん、「死角」のできにくい環境づくりにも努めましょう。とくにクレーン車やブルドーザーなどが現場内で作業等をしている場合は小さい子供達の興味の対象となりやすく、現場周辺や出入口は子供達の動きに十分な注意が必要かと思われます。「毎日事故ゼロ」を目指すには、毎日、一人一人が「交通安全」の自覚を持つことが大切です。



「過労運転・過積載運行を 防止しよう」

過積載は犯罪行為として罰せられます!

過労は「居眠り運転」「ぼんやり運転」につながり、重大事故の原因となります。トラックの運転は特に目の疲労度が高く、毎日の安全運転には日頃の健康管理が不可欠です。平成6年5月から実施された改正道路交通法により、とくに過積載に対する取締と罰則が強化され、運転者は勿論、荷主に対する罰則も強化されています。また、平成9年4月からは悪質な過積載に対する行政処分も強化されています。未然に事故を防ぐために●積載に関しての法律を知ること、●積載物の重量や積み荷の種類・状態をしっかりと把握すること、が必要です。



「デイ・ライト(昼間点灯) 運動を推進しよう」

自分を「見せる」ためのヘッドライトの役割

ヘッドライトは、運転中の自分が「見る」ためだけでなく、自分を「見せる」ための役割もします。デイ・ライト運動に参加した事業所では、交通事故発生件数が減少し、事故防止の効果が表れました。皆さんもぜひデイ・ライト運動に参加し、その輪を広げましょう。

